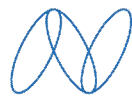


平成 28 年度

事業報告および決算報告書

自 平成 28 年 4 月 1 日

至 平成 29 年 3 月 31 日



一般財団法人 日本生物科学研究所

N I B S NIPPON INSTITUTE FOR BIOLOGICAL SCIENCE

## 1. 研究及び調査

平成 28 年度は事業計画に基づき、産業動物の衛生問題対策、食の安全性を確保する畜水産物の生産および伴侶動物の疾病予防と健康管理など、社会の要請に応じて貢献すべき事業分野の基礎的および応用的研究 21 課題を実施した。うち、外部からの競争的資金による受託研究として農林水産省食の安全・消費者の信頼確保対策事業 2 件、日本学術振興会の科学研究費 1 件、そのほか大学との共同研究 2 件を実施した。

## 2. 研究成果の発表

- 1) 研究成果 8 件を学会発表した。
- 2) 研究成果 4 件を誌上発表した。
- 3) 特許について、国内外の特許出願および取下げ 3 件(出願 1 件、取下げ 2 件)を実施した。
- 4) 学術広報
  - (1) 日生研たよりを隔月に発行し、国内 785 ヶ所、国外 27 ヶ所、合計 812 ヶ所の関係機関と個人へ、5回無償で各 955 部を配布した。
  - (2) 日生研たよりの事業内容の広報、情報公開をホームページにより積極的に行った。

## 3. 学会および研究会活動

### 1) 学会および研究会

当所の研究員は、平成 28 年 4 月 1 日現在、19 学会に延べ 57 名、8 研究会に延べ 16 名が所属している。また、賛助会員あるいは団体会員として 22 の学会・研究会等の運営に協力した。

### 2) 所内の研究会等

- (1) 研究課題の進捗状況・成果を発表する第一研究会を毎月 1 回定期的に開催した。
- (2) 外部から専門家を講師として招聘し、公開講演会(第二研究会)を 4 回開催した。
- (3) 各研究課題について研究推進会議を定期的を実施した。
- (4) 研究員が広く知識を吸収するため専門誌に掲載された学術論文の抄読会を定期的を実施した。
- (5) 研究員の語学力向上をはかるため毎週 1 回、米国人講師による英語教室を開催した。

## 4. 研修および技術協力等

- 1) 国内の 9 機関から合計 19 名の研修者を受け入れた。
- 2) 研究員等の知識・技術能力向上のため、所外で開催された学術集会、セミナー、シンポジウム、研究会、研修会、講習会等を延べ 89 名が受講した。
- 3) 大学、研究所などの延べ 4 機関からの要請に応じて抗原、免疫血清など、延べ 12 種類の研究材料を譲渡した。
- 4) 大学および動物医薬品検査所等から微生物株など 23 種類の研究材料を譲受した。

5. 講師等の派遣

各県や大学など国内延べ 42 機関で開催された研究会、講習会、研修会、業績発表会等に研究員等を講師、助言者、審査員等として派遣した。

6. 外部組織・委員会・学会等の役員等

22 機関の外部組織・委員会・学会等の理事、評議員、委員、専門家としてそれらの運営等に協力した。

7. 病性鑑定等

検査部では外部の依頼に応じ、臨床検査を行った。また、研究開発部と協力してブタ、ニワトリおよびウシ、合計 225 件の病性鑑定を実施した。

8. 実験動物の維持および生産

実験動物部ではニワトリ、ミニブタの 2 種の動物について、3 系統の実験動物を維持・管理した。

9. 実験動物使用数

動物の愛護および管理に関する法律等に基づき作成した「実験動物福祉並びに動物実験等及び実験動物生産の管理に関する規程」に沿い、56 件の実験を行った。

10. 日生研奨励賞の授与

本年度は研究課題名「マハタのウイルス性神経壊死症(VNN)不活化ワクチン開発及び製造チーム」について日生研奨励賞を授与した。

11. 生物学的製剤および動物用医療機器の製造と供給

受託製造品目数

品目	鶏用	豚用	馬用	牛用	犬用	魚用	合計
動物用ワクチン	19	13	8	3	1	2	46
動物用診断液	2	2	1	1			6
動物用医療機器	1						1